

## 論文番号 23

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Recent heavy drinking of alcohol and embolic stroke.

発作前の過剰飲酒と脳塞栓

執筆者

Hillbom M, Numminen H, Juvela S.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Stroke. 1999 Nov.; 30(11):2307-12

キーワード

飲酒・心原性脳塞栓・脳梗塞・危険因子

要旨

背景と目的：少量-中程度のアルコール摂取が脳虚血発作のリスクを減じる一方で、過剰摂取がリスクを増加させるということが、疫学的に知られてきた。しかし、異なった飲酒パターンの役割は不明確なままであった。我々は最近の軽・中程度・過剰な飲酒と過去の過剰飲酒を急逝虚血性脳梗塞の危険因子とし、病因学的下位分類により検討した。

方法：脳虚血発作と診断された16-60歳の212名(女性54名、男性158名)の患者と、同病院の救急部に入院した274名(女性112名、男性162名)のコントロール群とを比較した。多項ロジスティック回帰分析を行い、考え得る交絡因子の影響を調整した上で多項相対危険度としてオッズ比(OR)と95%CIを算定した。交絡因子としては、年齢・性別・BMI・高血圧症・糖尿病・高脂血症・現在の喫煙・偏頭痛の既往を挙げた。

結果：過去の過剰飲酒ではなく、最近の過剰飲酒が脳卒中の独立した危険因子であった(OR=1.82, 95%CI 1.08-3.05)。発作前1週間の151-300gのアルコール摂取と300gを超えるアルコール摂取が心原性脳塞栓と原因不明の脳卒中とリスクを増加させていた。発作前24時間以内の40gを超えるアルコール摂取は、ハイリスク群での心原性脳梗塞のリスク(OR=4.75, 95%CI 1.23-18.4)と顕著な大動脈硬化症患者での2つ以上の原因により生じている脳塞栓のリスク(OR=7.68, 95%CI 1.82-32.3)を有意に増大させていた。少量飲酒は脳卒中のリスクを増大させなかった。

結論：心臓あるいは大動脈に血栓源を有する患者においては、急激な酩酊量の飲酒は脳塞栓発症の引き金かもしれない。